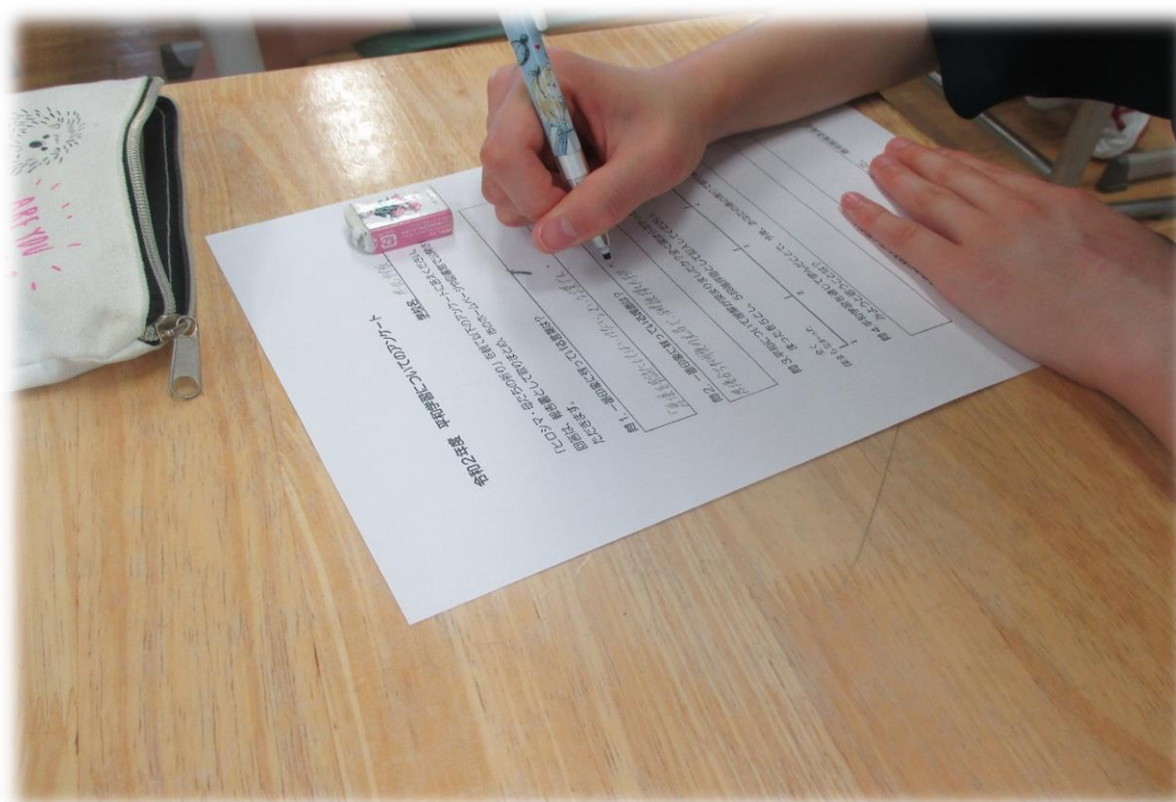


令和2年度

平和学習活動 事業報告書



燕市教育委員会 学校教育課

「非核平和都市宣言」（平成 18 年 12 月 25 日）

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

目 次

- 1. 平和学習活動実施概要 2ページ
- 2. 平和学習活動の様子 4ページ
- 3. アンケート紹介 5ページ



1. 平和学習活動実施概要

(1) 目的

非核平和宣言都市推進事業および平和学習活動実施の一環として、次代を担う中学生を国際的な視点で命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒に育成することとします。

(2) 経緯

例年、広島市で開催される平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）へ生徒を派遣していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえ、派遣は行わないこととしました。それに代えて、広島平和記念資料館より借用した当時の貴重な資料を収めたDVDを鑑賞し、平和学習としました。

(3) 活動内容

- ①広島平和記念資料館より借用の資料DVD「ヒロシマ・母たちの祈り」を視聴
視聴実施日 7月21日（火）～8月6日（木）／対象：中学3年生

広島平和記念資料館より借用した当時の記録を視聴し、話し合いなどの理解を深める時間を設け、その後、自由記述を含むアンケートを実施しました。戦争のむごさや平和の尊さを伝える映像資料を用いることで、原爆の被害や凄惨さを知り、命の尊さや平和について考え、行動ができる生徒を育成しました。

【参考】

- 視聴日および視聴対象人数 ※（ ）内は実視聴人数

- ・燕中学校：7月30日（木）／200名
- ・小池中学校：7月21日（火）～8月6日（木）／64名
- ・燕北中学校：8月4日（火）／61名
- ・吉田中学校：7月31日（金）／175名
- ・分水中学校：7月28日（火）／107名

②千羽鶴の作成

- 作成日 6月中旬～7月31日（金）／対象：中学全学年

平和への願いを込めて千羽鶴を作成しました。広島市では、例年通り、千羽鶴を受け入れることから千羽鶴の作成を各学校へ依頼し、市が取りまとめて広島市へ輸送しました。現地へ赴くことはできませんが、生徒一人一人が折り鶴を作成し、その折り鶴を奉納することを通して、平和への思いを深めることを目的としました。

○資料DVD「ヒロシマ・母たちの祈り」とは

原爆が投下されてからの被爆者の苦悩の生活と、その中にありながら、核兵器廃絶と世界恒久平和を求め続けてきた広島歩みを、子を持つ母の視点から描いた平和の尊さと被爆体験の継承の大切さを訴えている記録映画です。広島市の有識者によって構成された「原爆映画製作委員会」の企画・監修により、2年をかけて製作されました。日本語、英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、ハンガール語、中国語に翻訳され、世界中の平和を願う人々に視聴されています。

【概要】

戦前の広島は、活気の溢れる町でした。1945年8月6日の朝、警戒警報は解除され、子どもたちは学校や家屋の疎開作業に出かけ、午前8時15分に原爆に遭いました。

当時の貴重な映像や資料により、原爆投下後の実態、そしてあの日から現在に至るまでの広島の様子が記録されています。

上空580mで摂氏数百万度の巨大な火の玉となった原爆は、3,000度の熱線で大地を焼き、音速を超える爆風と致死量の放射線で人々を貫き、全てを奪いました。

原爆によって悲慘なケガを負い、帰る家を失くした人たち、そして親を亡くした多くの原爆孤児が生まれました。

戦後2年目の1947年8月6日に初めて平和祭（後の広島平和記念式典）が行われ、7度目の8月6日には、「ひろしまの誓い（碑石）」が設置されました。碑石には【ちちをかえせ ははをかえせ としよりをかえせ こどもをかえせ】と刻まれ、戦争と核兵器の使用の過ちを2度と繰り返さないことを世界へ訴えました。

そして、10年目の広島平和記念祭には、水爆実験により被爆した乗組員の家族や、核・原水爆に反対する世界の人々が集まり、国境や立場を超えて広島と長崎に平和の証を求めました。

戦後20年目には、復興が目覚ましい中でも、年ごとに確認された遺骨と巡り会い、歳月を超えた悲しみを迎えた人や、胎内被爆により水頭症を患いながら生まれ20歳を迎えた人など、なお原爆と戦い続けている多くの人がありました。

あの日から25年目、悲慘なケガを乗り越え生き延びた人々は、記録映像のインタビューの中で「平和を考えると、最初に被爆者が叫ばなければならないのではないかと思います」と話しました。

そして、36年目の1981年に、ローマ法王のヨハネ・パウロ2世は慰霊碑の前に跪き「ヒロシマを考えることは核戦争を拒否することです」と世界に訴え、さらに国内外の地方自治体の市長で構成された、世界平和連帯都市市長会議は平和のため、力を合わせることを誓い合いました。

次の世代の心に受け継がれることで、広島の死者たちは蘇ります。あの日亡くなった人たち、あの日から生き続けた人たちの心を繋ぎ、広島は核のない世界を求め続けます。それこそが広島の永遠の祈りです。

2. 平和学習活動の様子



▲広島市へ輸送した千羽鶴、原爆の子の像に奉納された



▲千羽鶴作成の様子①



▲千羽鶴作成の様子②



▲資料DVD視聴の様子①



▲資料DVD視聴の様子②



▲資料DVD視聴の様子③



▲視聴後のアンケートの記入



▲隣の人と感想等の話し合い

3. アンケート紹介

市内5中学校の3年生を対象に、『ヒロシマ・母たちの祈り』のDVD視聴後に感想等の自由記述を含む平和学習活動についてアンケートを行いました。生徒たちの回答を紹介します。

■一番印象に残っている言葉は？

- ・「戦争を昔話で終わらせてはいけない」という言葉です。
- ・ちちをかえせ ははをかえせ としよりをかえせ こどもをかえせ という石碑の言葉。
- ・何が起こったか分からなかった。
- ・町が死んだ。
- ・原爆症。
- ・ケガの治療をしてもらっていた小さい女の子が「お母さん、お母さん」と言っていたこと。
- ・「原爆に時効はないのです」という言葉。
- ・「どの家族も欠けている」という言葉です。いつも家族がいるのが当たり前と思ってはいけないと思いました。
- ・「広島は大きな墓場になった」という広島で多く死者が出ってしまったという言葉。
- ・片目を失ったこの人はあの日見たことを忘れることはない。
- ・原爆、1945年8月6日8時15分。
- ・広島に原爆が落ちた年の40年後の中学生が「あの日のことを昔話で終わらせてはいけない」という言葉。
- ・黙っていることは、もう許されないのです。
- ・目に紫色のような桃色のような光が焼き付いている。
- ・私たちは原爆を許しません。
- ・「毎日が原爆と戦い続けた25年」という言葉。
- ・平和。
- ・原爆によって罪もない人たちの命が奪われた。
- ・くずれ落ちそうな手。
- ・緑もなく、子どもの声もなく、まちは死んだのです。
- ・原爆はあってはならない。
- ・女の子が「原爆のことを昔のことと思っていいのか」と問いかけているところ。
- ・ケガなどが治っても、行き場のない人がたくさんいる。
- ・次の世代に思いが受け継がれたことにより、あのときの死者たちはよみがえったのです。
- ・これが本当に私たちの広島なののでしょうか。
- ・あの出来事を昔話に終わらせていいのでしょうか。
- ・母の祈り。
- ・映像で聞いた言葉の全て。どの言葉も、戦争や原爆の怖さ、残酷さを伝えていて、とても悲しくなった。
- ・ピカ。
- ・原爆を忘れないという言葉です。

- ・原子爆弾、後遺症、白血病。
- ・苦しみながらも戦っている、という言葉が残った。
- ・やっと体験した人たちが世界に訴えることができました。
- ・川は死体で埋まっていた。
- ・医療従事者が被爆したにも関わらず、約 21 万人の患者が殺到した。
- ・ナレーションの人が広島を「大きな墓場」と言っていたのが印象に残った。
多くの人々が亡くなってしまうくらいの威力だったことや、広島がとても悲惨な状態になってしまったことが伝わってきた。
- ・核なき世界を。
- ・広島を思うことは核の存在を非難すること。
- ・熱い光が襲ってきた。
- ・放射能の後遺症で苦しんでいる。
- ・死の灰。
- ・原爆孤児。
- ・中学生たちが歌っていた歌の「大地に君は消えた」というところ。
- ・一瞬で町が焼け野原になってしまった。
- ・あの子どもたちの訴えかけるような目が忘れられません。
- ・母は痛む足を引きずりながら息子のもとへ通うのです。
- ・赤十字社。
- ・3、4 年経ち白血病が人々を苦しめている。
- ・「消えた 8 月」を歌った中学生が悲しみと許せないという気持ちが入っていると感じました。
- ・それでも町は動き始めた。
- ・被災者 35 万人。
- ・年老いた母は今もなお、原爆が落ちた日に長い時間祈っている。
- ・人々の原爆反対は次第に平和への祈りへと変わっていきました。
- ・悲しみは平和を願う気持ちへと変わった。
- ・水爆。
- ・戦争が原爆を生み出した。
- ・残った右目でこれからを見ていく、というおばあさんの言葉。
- ・親を失い、子どもだけが取り残されたのです。
- ・白血病が治ると信じて千羽鶴を折り続けていた。
- ・子どもたちは心の中で生き続ける。
- ・命。
- ・「罪のない母と子が背負った苦労」という言葉。
- ・戦争がなかったらこんなことにならなかった。
- ・原爆の出来事が忘れられようとしている。

■一番印象に残っている場面は？

- ・小さい女の子が顔をしかめながら「お母さん、お母さん」と言い続けている場面。
- ・家族の人たちが亡くなった子どものことを思って泣いていた場面。
- ・人がたくさんの傷や、後遺症などを負っているところ。
- ・人が火傷しているところや、目が見えなくなっている人の場面。戦争の生々しさが伝わってきたから。
- ・色々な人たちが火傷を負って病院に集まっているところ。
- ・被爆者の感情を失くしたような虚ろな表情。
- ・被爆してケガをした人たち。
- ・脱毛により髪が薄くなった子ども。
- ・被爆した人たちが治療を受けている場面。
- ・原爆を受けた人が横たわっている場面。
- ・片目をなくした人の治療をしているところ。
- ・ところどころで出てきた原爆時のイラストや原爆での負傷者の映像です。
- ・壁に人の影が焼き付いていたという場面。
- ・原爆ドームが落ちて 44 年後の平和式典。
- ・ローマ教皇が広島にひざまずいた後に、子どもを抱きしめていたところ。
- ・原爆投下の何十年後に、広島の中学生たちが平和を願って涙を流しながら歌を歌っていた場面。
- ・原爆から 40 年後の広島で、当時被爆した子どもたちと同じくらいの年齢の子供たちが、平和の大切さや核兵器廃絶の演説を熱心に行っている場面が印象に残りました。
- ・中学生が平和について、訴えているところ。
- ・みんな揃って手を合わせ、平和な世界を祈っているところ。
- ・世界に広島を原爆を伝えて、原爆をなくそうとして歌を歌った場面。
- ・被爆した人が一生懸命生きていたところ。
- ・夏に子どもがお父さんの遺骨を暑いからと言って扇いでいる場面。
- ・被爆して生き残った人たちの映像。
- ・千羽鶴を作れば白血病は治ると信じた女の子の場面。
- ・お母さんが真っ黒になった赤ちゃんをおんぶしている絵。
- ・被爆後の町の様子。
- ・被爆者の生活や、40 年後の子どもたちが戦争について訴えているところ。
- ・お母さんが息子の墓に行つてろうそくをあげていたところ。
- ・原爆で被害にあった人が、火傷を治療してもらっていた姿にすごく心が痛んだ場面でもあり、心に残った。
- ・無傷の子どもが生きる気力を失くしている場面。

- ・頭がい骨が山積みになっている場面。
- ・時計が原爆の落ちた8時15分のまま止まっている場面。
- ・病院で治療を受けている患者さんの場面、皮膚がただれていたり、腕がなかったり、目がなかったり、白血病で髪の毛が抜けているところなど。
- ・原子爆弾の落とされた瞬間。
- ・指が溶け、くっついて手の形が変形しているところ。
- ・亡くなった人の名前が書いてある石の多さ。
- ・子どもが子どもをおんぶしているところ。
- ・お墓の前で泣いている家族。
- ・中学生が40年経っても原爆のことを真剣に考え、歌ったりしている場面。
- ・壊れている病院に、たくさんのケガをした人たちが押し詰めていたところ。
- ・親を失い、一人で立っている少年。
- ・被爆直後に家族を探している場面。
- ・二人の子の訴えかけるような目。
- ・式典をしている場面で、被爆者が花を供えたり、泣き崩れていたり、子どもたちが思いを語ったり、歌っている場面。
- ・家族をみんな失って、今まで楽しかった生活がなくなってしまったという場面。
- ・たくさんの人が倒れている場面。
- ・被爆者の姿、原爆孤児たちの話。
- ・世界のいろんな人が広島のようなことが起きないように話している場面。
- ・原爆が投下された後の広島町の並。
- ・被爆者と焼け野原。苦しんでいる人々を見て辛くなりました。一つの爆弾で何もなくなっていて恐怖を感じました。
- ・白血病や原爆症で苦しむ人たちの場面。
- ・赤十字の病院で、医療機器が壊れて薬がなくなったり、被爆の被害が紹介されたりする場面。
- ・被爆した人が今も生きて、平和のことやそのときのことを話したりしているところ。
- ・鶴を作り続けた女の子が亡くなった後、周りの人が女の子の像を作ったところ。
- ・子どもを失った親が手を合わせている場面が印象に残った。
- ・妹をおぶって瓦礫の中を歩いている少年。
- ・原爆によって傷付いた人々が一生懸命に生きようと治療を受けているところ。
- ・表情がなくなっている子どもたち。
- ・第五福竜丸被爆。
- ・原爆、水爆の爆発の瞬間。
- ・平和記念式典で中学生が原爆を二度と起こさないために歌を歌っているところが感動しました。

■平和学習を通じて学んだことで、今後あなたの身の周りで取り組んでみようと思うことは？

- ・人を傷付けないこと。相手の立場に立って物事を考えたり、気持ちを考えて行動したい。エンパシーを大切にしたい。
- ・戦争について理解を深めること、話合いで物事を解決する力を身に付けることなどです。
- ・被害に遭った人たちを、たくさんの方が助けようと動いたように、災害の被災地を支援するための募金などに参加したいと思いました。
- ・今、生活できていること、友達や家族など日々接している人に感謝する。
- ・原爆が落とされた日に、どれだけの命が失われたかを考える。今、当たり前に行っていることに感謝をする。
- ・家族などにこの DVD のことを話したり、歴史の勉強を今回学んだことを生かして、理解を深める。
- ・誰とでも優しく、笑顔で接する。
- ・私は、これから戦争で亡くなってしまった人のことを忘れず、当たり前に行っていることに感謝して生きていきたいと改めて思いました。
- ・世界が平和になるよう目指すために、小さなことでも取り組んだり、ボランティアなどに協力すること。
- ・戦争、核の怖さ、危なさを忘れず、次の世代につなげていくことが大切だと思った。
- ・世界の差別問題を知ること。
- ・これから大きな戦争が起きないために、政治などのニュースにも興味を持って考えていきたいと思いました。
- ・自分の命と、他の人の命を大切にしていこうと思いました。
- ・戦争みたいな大きな問題ではないけれど、身の周りでけんかなどが起こったときは、平和に解決できるようにしたいです。
- ・人が傷付く発言をしない。
- ・戦争をしないこと。戦争について次の世代に伝え続けること。
- ・みんなで鶴を折ったり、自分たちより下の人たちに話したりして受け継いでいく。
- ・これからも平和学習を続けていって、この辛い出来事を忘れないようにすること。
- ・原爆や戦争のことを決して忘れず、毎年8月6日や9日にはテレビでやる平和についての番組などを見るようにしていきたいです。
- ・核兵器や戦争を反対するのはもちろん、平和に関する話や場所を調べたり、訪れたりし、平和への理解をもっと深めようと思った。
- ・他の国の文化を理解する。
- ・身の周りの日常の小さな幸せを大切にすること。
- ・些細なことで諦めたりしないようにしたいと思いました。

- ・傷ついた心は一生癒えることはないと学んだ。周りの人を絶対に傷付けない。
- ・平和について考える。
- ・平和学習を通じて学んだことは、世の中の人々は平和を求めている、一生懸命だということ。今後、お年寄りや困っている人がいたら助ける。
- ・今後、戦争が起きないようにみんなで仲良く、そして譲り合ったりすることが大切。
- ・平和を一番に考え、周りの人がみんな幸せになれるよう考えて行動する。
- ・8月6日に気持ちを込めて黙とうをしようと思います。
- ・もっと原爆について深く学ぼうと思った。
- ・家族と友達と知り合いを今よりもっと大事に思い、仲を深めていきたい。
- ・くだらない争いをなくして、楽しく過ごせるように周りをよく見て相談に乗ったりする。
- ・原爆や戦争は絶対にしてはならないという呼びかけや、ポスター作り。
- ・病気、ケガなく生きられていることに感謝。
- ・ニュースなどで流れてきたら、真剣に考えて見る。歴史を勉強するときに、よく考える。
- ・原爆ほど大きなことでなくとも、身の周りでの小さな争いが起きているかもしれない。それで、人が傷付いたりしないように、そういう争いはしないし、していたら止めるようにする。
- ・もっとニュースを見て、色々な出来事について自分で考えたり、家族と話し合うこと。
- ・たくさんの人々の命を大切にするために、いじめや差別を絶対にしないようにしようと思った。
- ・核爆弾の怖さを周りの人に伝え、同じことを二度と繰り返さないようにしたい。
- ・困っている人たちに声をかけ、助けてあげたいと思いました。
- ・図書館で平和に関する本を読むこと。
- ・けんかや、口げんかをしない。していたら止める。
- ・いじめを絶対にしない。すぐに怒ったりしない。
- ・アンテナを高くはり、世界の紛争などについての情報を取り入れたい。
- ・誰もが安心安全で暮らせるように、まずは自分がしっかりし、色々なことに協力したい。
- ・周りをよく見る。もしもの場合のために、避難経路確認。
- ・他人事のように原爆を捉えるのではなく、自分がもしそのようになっていたらなど、自分のことのように考える。
- ・このような事実があったことを胸に刻み、よりよい世界にするために18歳になったら選挙へ行くこと。
- ・面と向かって話し合うこと。

■感想

- ・被爆を受けた身で苦しさがありつつも世界に抗議する姿がとてもたくましいと思いました。私もこの出来事を身にとめ、これからも戦争のない世界を祈ります。
- ・もっと自分たちが詳しく理解して忘れていけないようにしようと思った。
- ・広島原爆について分からないことが多く、初めて見たに近い状態でした。被害を受けた人を見て、小さいのに命を失う、母・子をなくす、家族全員が揃わないという一番大切な人を亡くして生きるのはとても辛いと思いました。
- ・今までの、このような学習で広島がどんな状況か少ししか知らなかったのが、今回で改めて知ることができた。親の気持ちを考えるととても辛い思いになった。
- ・とても怖かった。今後戦争は起きてほしくないと思った。
- ・今回改めて、原爆の怖さを知りました。原爆で亡くなった人たちの分までしっかり今を生きようと思いました。
- ・原爆の怖さが改めてよく分かりました。とてもひどい火傷や、たくさんの症状に苦しんでいる人や、自分の大切な人を失った人など、広島の人はもちろん、違う都道府県の人にも大きな傷があると思いました。
- ・被爆されるであろう人のことを考えたら、核実験が続くこともなかったと思った。このことを忘れずに、生きていきたい。
- ・原爆でたくさんの大人や子どもが犠牲になってしまったこと、その悲しみが今でも消えないこと、そしてその思いは今後も消してはならないことだと思いました。平和がどれだけ幸せかを学びました。
- ・急にあんな風になったら本当にどうすればいいか分かんなくなると思うし、いきなり大切な人がいなくなるなんてとても悲しいことなので、戦争はよくないと思った。
- ・とても怖かったです。戦争は本当にだめなことなんだなと思いました。
- ・一瞬で予想もしていなかったほどの多くの場所が焼け野原になるくらいすごいものなんだなと思った。多くの建物が消え、命が亡くなったこの日は本当に特別な日だと思う。「昔そんなことがあったんだ」で終わるのではなく、平和について考えたいと思った。
- ・歴史の授業で学んではいたものの、これほどひどいとは思っていなかった。家族と死別してしまった人を見て、絶対に戦争なんてしてはいけないものだ改めて実感した。
- ・外傷はもちろん、心の傷を負っている姿が痛々しく表れていて怖くなった。今の人々は、原爆を経験した方の方が少なくなっているけど、これは忘れるべきではない。後世に伝えなくてはならないと思った。
- ・教科書の文字を読むだけでは感じられない、原爆のひどさを知りました。

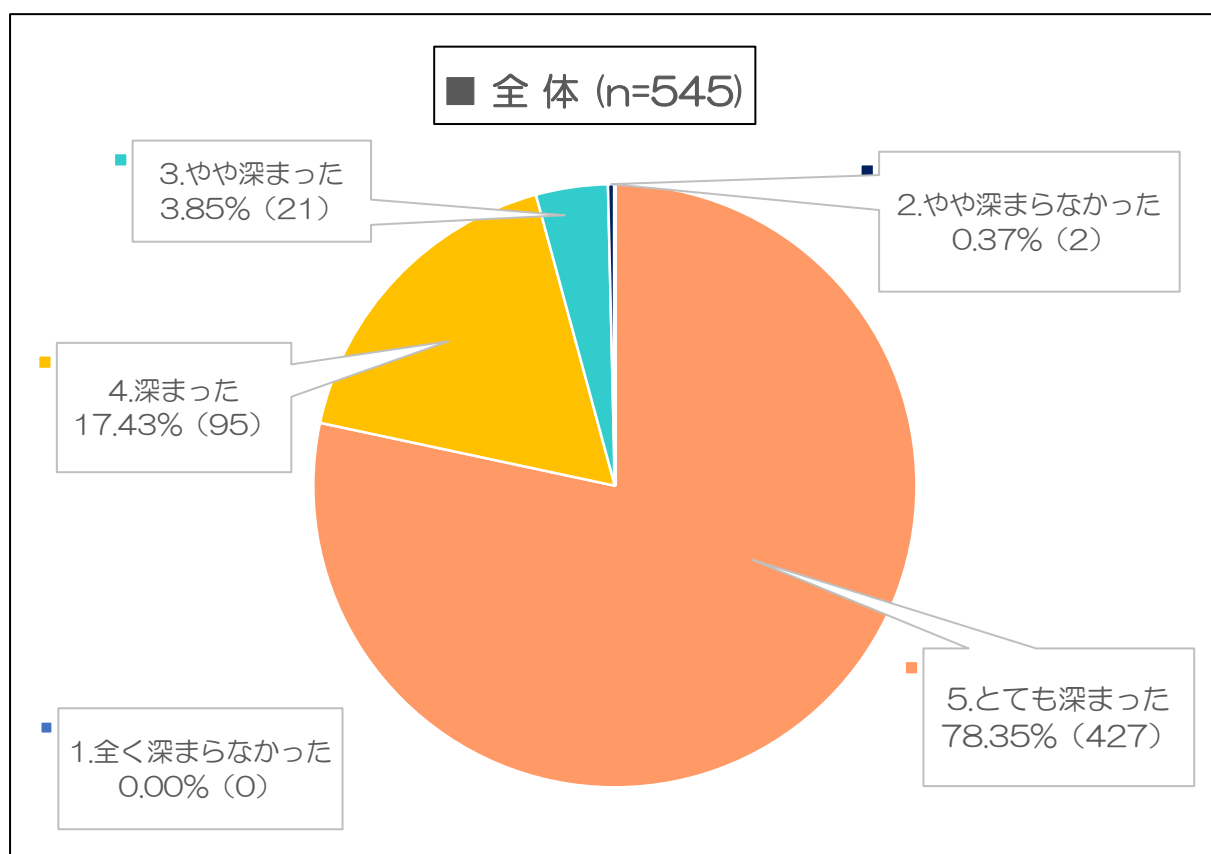
- ・こんなリアルな映像は初めて見たので、びっくりもしたし、考えるきっかけにもなった。
- ・二度とこのようなことが起きてほしくないし、起こしてはいけない。この原爆被害で今もなお苦しんでいる人がいることを忘れないで、自分の命、身の周りの人の命を大切にしたいです。
- ・平和学習で広島に落ちた原爆はものすごい被害を出したと改めて実感した。
- ・被爆者の悲痛な思いや、亡くなっている方々の姿を見てみると、とても心が痛みました。原爆後の何十年も苦しみ続けている人を見て、なぜ戦争が起こってしまうのか考えました。なぜ、関係のない国民までもが、無差別な原爆を受けなければいけなかったのでしょうか。現在、第二次世界大戦後、もっとも世界情勢が悪くなっていると言えます。もっと、今の普通の幸せを大事にしたいなと思いました。
- ・このような惨事が二度と起こらぬよう、未来へとつないでいきたいです。
- ・原爆はその一瞬で亡くなった人も多いけど、2年、3年、10年、20年など経った後に原爆症によって亡くなる人もいて、一瞬だけでなく、後遺症も残るので苦しめられたのだなと思いました。
- ・原爆を受けて身内の人が亡くなった中、絶望を感じて亡くなった人がいたけど、諦めず最後まで生き延びようとしていてすごいなと思いました。
- ・原爆は爆発した後にも、放射線で亡くなってしまう方もいて、その中には、自分よりも年下の子もいて、とてもかわいそうだった。見ていて手が震えていた。
- ・このヒロシマ・母たちの祈りを見て、絶対に戦争はしてはいけないし、子どもたちの将来などを奪ったから、それが悔しいと思った。
- ・今まで遠い昔話のように感じていましたが、決して昔のことではなく、多くの人がずっと苦しんでいることが分かりました。教科書やメディアでよく目にしますが、「原爆に苦しんだ」ということしか知らず、この映像で「どんなふうに苦しんだ」「どんな影響を与えた」ことが詳しく分かり、戦争は決してあってはいけないと思いました。
- ・今の世界、自分の周りの環境がどれだけありがたいことかを実感しました。核の恐ろしさは、自分たちはDVDでしか見て聞いていないから、全ては分からないかもしれないけど、日本人として今生きている人間として、忘れてはいけないことだと感じました。
- ・原爆を落とされ、焼け野原になって、死者が出てもアメリカへの攻撃をしなかったというのがとてもすごいと思いました。先に核兵器をなくそうと考えているのがすごいと思いました。
- ・原爆、核爆弾はこの世にいらないと思った。
- ・一つ一つがとても心に残った。核が完全に消えることを願う。

- ・日本人として、原爆のことは絶対知っていなきゃいけないと思った。広島や長崎の人たちは、急に原爆を落とされて大変だっただろうなと思った。でも、みんなで頑張ろうとしているのはすごいし、カッコいいと思った。
- ・この事実が100年前でない、そんなに経っていないことが信じられないし、もっと平和になるようになってほしい。また、亡くなってしまった人の分まで生きたい。
- ・75年前の今ごろ、原爆によって苦しんでいた人々がいたことを実感させられる映像でした。もうあんなことは二度と起こらないようにしないといけないと感じました。
- ・今、自分たちが平和に過ごせているのは、本当に貴重で素晴らしいことだなと思いました。
- ・ものすごく悲惨なことがよく伝わりました。短時間でたくさんの人の命を奪ったことや、今でも体・心に傷を負っている人がたくさんいることを改めて知りました。
- ・当時のことを伝えられる人はもう若くないと思うので、今のうちに色々な人から話を聞いてみたい。
- ・平和というものはとても難しいんだなと思いました。平和を維持するために、話し合いをして逆らう人が出てきたらそこで止めるために力を使い、その時点で平和じゃないし、万人一致の考えがあるのか自分なりに考えていた。
- ・私が一番印象に残っている場所は、千羽鶴を折れば治ると信じていた子のところです。結果的に亡くなってしまい、すごくかわいそうだなと思いました。
- ・絵で人が亡くなっている様子を見たとき、なぜこんなに多くの人が亡くなってしまったんだろう。どうにかして防ぐことはできなかったのか、と考えました。私よりも年齢が下の子も巻き込まれてしまって、すごく苦しかったです。
- ・広島でこんなにも亡くなって苦しみ、悲しい思いをしたんだなと改めて思う授業であり、こんなことがあっても乗り越えてきたんだなと感動する授業でもありました。
- ・自分が中心になって物事を考えたり、誰かと自分を比べようとしないように気を付けたいと思った。平和は、その人の価値観や物事の考え方によって人それぞれだと思うから、色々な人とお話ししたりして、自分が思う平和をこれから考えていきたい。
- ・わたしの祖母も、戦争は二度と繰り返してはいけない、あんな地獄は未来の子たちには記憶として忘れないでくれればいい、実際に体験なんかしてはいけない、と言っていました。今回この「ヒロシマ・母たちの祈り」を見て、改めて祖母の言葉の重みを実感するとともに、私が祖母から聞いたこと、記録として残っている映像を見たときの気持ち、二度と繰り返してはいけないという思いを必ず後世の人たちに残していかなばと気持ちを固めることができました。

- ・原爆で命を落としてしまった人の分まで、必死に頑張ろうと思いました。
- ・原爆が落ちたときの煙が、雲まで届きそうなくらい大きくて、あの下にいた人たちの思うと胸が痛くなりました。
- ・原爆が広島にもたらした「むごさ」や「痛ましき」というものを後世に伝えるもの、それが原爆ドームでした。でも、何よりも伝え残さなくてはならないものだと思います。こんな恐ろしいことが75年前に実際に日本、広島でありました。広島で起きたことを見て、色々と考えさせられました。今まで当たり前のように、幸せに生きていたこと、平和であることに感謝して、これからは今まで以上に大切に毎日を過ごして生きていきたいと思いました。
- ・戦争によって離れ離れになる家族や、食べ物を満足に食べられない人がいると分かった。なので、色々なものを粗末にしないように今あることをありがたく思おうと思った。
- ・とても辛い映像で、核を人間が作ったものとは思えないくらい影響が大きく、それでたくさんの人を殺してしまうのは許されないことだと思いました。その思いを持ちながら、今も抗議を続けている広島は日本の誇りだと思います。
- ・今の平和な日本があるのは、昔の人が戦争でとても辛い思いをしながらも頑張って未来に繋げていってくれたので、日ごろから感謝して、当たり前だと思わず生きたいです。
- ・映像を見るだけで、こんなに辛い気持ちになるのに、この場にいた人は想像もできないほど辛かったのだと思います。平和を祈ることしかできませんが、昔のことを勉強して今に繋げるのは大切だと思いました。
- ・原子爆弾、戦争の恐ろしさが分かった。核を保有している国はすぐに手放してほしいと思った。平和な世界を作っていけるように自分もできることから始めていきたい。
- ・問1でも書いた言葉で「核なき世界を」というのは、今を生きる私たちと、実際に戦争を体験した人たちが言うのでは、同じ言葉でも違う意味のように聞こえるほど、重みがある言葉だった。
- ・大切な人が死んだら、私たちは悲しみます。もし自分が死んだとき、周りに悲しんでくれる人がいることに感謝したい。
- ・消えた8月という歌の内容に当時のことが書かれていて、胸が苦しくなりました。
- ・DVDでは多くの人が涙を流してしまっていた。でも、亡くなった人は戻ってきません。その現実がとても辛く、悲しいことだなと思いました。
- ・私は戦争の話は痛々しいことが多く、あまり進んで見たくないことでした。できるだけ目を背けてきました。でも、「原爆や戦争を昔話にしてはいけない」という言葉もあったように、目を背けてはいけない上に、これからの未来の平和を考えるために必要なことだと思いました。

■平和学習活動を通じて、平和について理解が深まったかの調査結果です。
全く深まらなかったを1、とても深まったを5として評価しています。

	全く 深まらなかった (段階：1)	やや 深まらなかった (段階：2)	やや深まった (段階：3)	深まった (段階：4)	とても深まった (段階：5)
全体 (n=545)	0 名	2 名	21 名	95 名	427 名

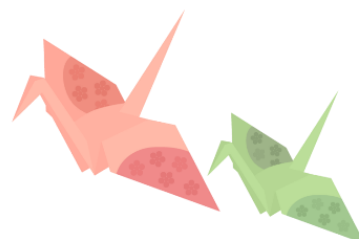


■ アンケート結果から

平和についての理解が、「やや深まった」、「深まった」、「とても深まった」と評価した生徒は 545 名中 543 名で、全体の 99.63%でした。

生徒は感想の中で、原爆により身体・心に傷を負った人への悲しみや痛ましさを感じ、また、戦争当時と現在の環境を比較し、周囲に感謝する気持ちや、より良い未来をつくるために自分ができることを考えて行動する気持ちを記載していました。

命の尊厳や、平和の尊さについて理解を深めた燕の子どもたちが平和な社会の実現に向けて力強い一歩を踏み出すことを期待しています。



被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東 1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは 1973(昭和 48)年に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。

被爆アオギリ二世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切にする心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕 市 平成 30 年 4 月 植樹



令和 2 年度
平和学習 事業報告書

燕市教育委員会 学校教育課